

(山梨県詩人会会長)
(山梨県農業人学講師)

海岸線で / 安藤 一宏

海岸線でふと思う
空を見るならいつだって
上を見なきやあならない
波を見るならいつだって
岸辺を見なきやあならない
けれど海と空との水平線は
何処にあるのか曖昧で
どんなに努力しても
見分けることが出来やしない
けれどらん

じつと見ていると
なんだかもやもやしたものが
消えてゆく
ぼくらの心のうちを真つ青な憧れを

海の色は何故青い
「海」の語源は水と毎
語源の意味はどんよりとした暗い色
いわゆる藍色に近いけど
ポジティブに生きようとする私には
真つ青な世界に見えてきて
健康的な青色世界を描き出す

元々色の波長は七色の虹色で
可視光線が交わると透明になる
ならば見方を変えてご覧

世界中の海が青いのは
私たちの受け止め方の問題で
どんな色にも変化され

たとえば
空と海が真つ赤な色なら
私たちはいつもドキドキし
落ち着かないまま
やがて狂つて死ぬのかも

ならば緑色ならどうだろう
地上の山肌は、而緑色のまま
さらに家の周りの葉は緑色
つまり空も海も世界はすべて緑色
これではやはり世界が混乱して
やがて心は狂うかも

つまり私たちが現在
生きているのは
空と海が青色で
木々は緑 血の色は赤色で
丁度良い

でもよく考えると
犬や猫や蝶の目には
人間と同じ色景色には映らない
となれば生きものと人間の差は
見る世界観が違うので
感情の世界も違うのか
それとも